

「自分の思いをもち，豊かに表現する児童の育成」
～「書くこと」の力を伸ばす授業づくりを通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 児童の実態把握の調査・分析
- (2) 「書くこと」の学習内容や指導方法についての理論研究
- (3) 「書くこと」の力を伸ばす授業づくりをし，授業研究で検証する
- (4) 読書活動や言語環境づくりの推進
- (5) 一人一実践を公開し，教師としての力量を高める
- (6) NIE 実践校としての研究
- (7) 「外国語活動」についての研修

2 研究実践

(1) 理論研究

- 6月 9日 「NIEの活動と小学校におけるNIEの実践について」
講師；NIEアドバイザー 渡邊節子先生
- 6月25日 「『書くこと』の授業づくりと『書くこと』の学習における課題について」
講師；義務教育課 保坂 伸指導主事
 峡東教育事務所 小林俊彦指導主事

(2) 授業研究

【低学年ブロック】

- 第3学年 教材名「食べ物はかせになろう」 授業者 堀井勝彦教諭
目指す言語能力 自分の考えが明確になるように，段落の役割を理解し，段落に注意して文章を書く力
(指導助言；峡東教育事務所 原 喜雄主幹指導主事)

【高学年ブロック】

- 第6学年 教材名「自分の考えを発信しよう」 授業者 小川洋子教諭
目指す言語能力 自分の考えを明確に表現するため，文章全体の構成の効果を考える力
(指導助言；峡東教育事務所 小林俊彦指導主事)

(3) NIEの実践

- 新聞に関するアンケートの実施
- 各学年でのN I Eの実践
- 新聞の閲覧場所の設置
- 職員による新聞記事の紹介「知っているかな，こんな記事」

(4) 読書活動と言語環境づくり

昨年度までの研究の成果を生かし，読書活動では目標読みやブックウォークに，言語環境づくりでは詩・短歌・俳句などの暗唱検定に取り組んだ。

II 成果と課題

1 成果

初年度の研究として，昨年度までの本校の研究の成果を十分にふまえた研究であり，講師を招聘しての基礎研究と授業研究を中心とした実践研究を充実させることができた。また，K J法を使っての教師からみた児童の実態把握を行い，みんなで共通して課題を明らかにできたことにより，「書こうとする意欲をもたせる授業」「どのように書いたらよいか分かる授業」「書くことが苦手な子への支援」という3点を授業づくりの視点として確認することができ，それらを検証するために3学年と6学年の国語科で授業研究を行った。さらに，N I Eの活動と絡めて，各学年で書く機会を工夫して創り出すことができた。それらの取組により，子どもたちの「書くこと」への抵抗感が少なくなっていくことがわかった。

N I Eの実践は，初年度ということで「新聞に親しむ」ことを目標に取り組んできた。各学年で様々な活動に取り組むことができ，子どもたちが新聞に親しむことができた。

2 課題

日常の児童の実態や CRT・学力テストなどの資料からくわしい実態把握に努め，できたら本校児童の課題が焦点化でき，取組の方向性が共通理解できれば効果的である。

III 成果物

- 1 第1学年 国語科学習指導案 教材名「日づけとよう日」
- 2 第2学年 算数科学習指導案 教材名「九九をつくろう」
- 3 第3学年 国語科学習指導案 教材名「食べ物はかせになろう」
- 4 第4学年 算数科学習指導案 教材名「計算の約束を調べよう」
- 5 第5学年 国語科学習指導案 教材名「物語を作ろう」
- 6 第6学年 国語科学習指導案 教材名「自分の考えを発信しよう」
- 7 第5学年 理科学習指導案 教材名「おもりのはたらき」
- 8 たんぽぽ教室 算数科学習指導案 教材名「折れ線グラフ」
- 9 コスモス教室 算数科学習指導案 教材名「比べ方を考えよう」
- 10 N I Eの実践記録

(研究主任 古屋宏記)